

2025.3.10

総合計画審議会
第1回専門部会

資料第1号

第6次尼崎市総合計画の点検について

尼崎市 都市政策課

2 総合計画の構成と期間

本市では、まちづくり構想とまちづくり基本計画を一体としたものを、総合計画としています。

(1) まちづくり構想

まちづくりにかかわる主体と共有していく、尼崎らしいまちづくりのビジョン(展望)を示すもの

① ありたいまち

わたしたちがまちづくりを進めていく上で共有する「こうありたい」と思う尼崎らしいまちの姿(めざすまちの姿)

② まちづくりの進め方

「ありたいまち」の実現に向けて、わたしたちがまちづくりを進める上で、大切にしたい基本的な姿勢

③ まちづくりの基本的視点

「ありたいまち」の実現に向けて、わたしたちがまちづくりを進める上で、基本とする考え方や方針

(2) まちづくり基本計画

「ありたいまち」の実現に向け、「まちづくりの進め方」や「まちづくりの基本的視点」を踏まえて実施する取組やその方向性を示すもの

① 施策別の取組

組織を超えた分野ごとの取組やその方向性

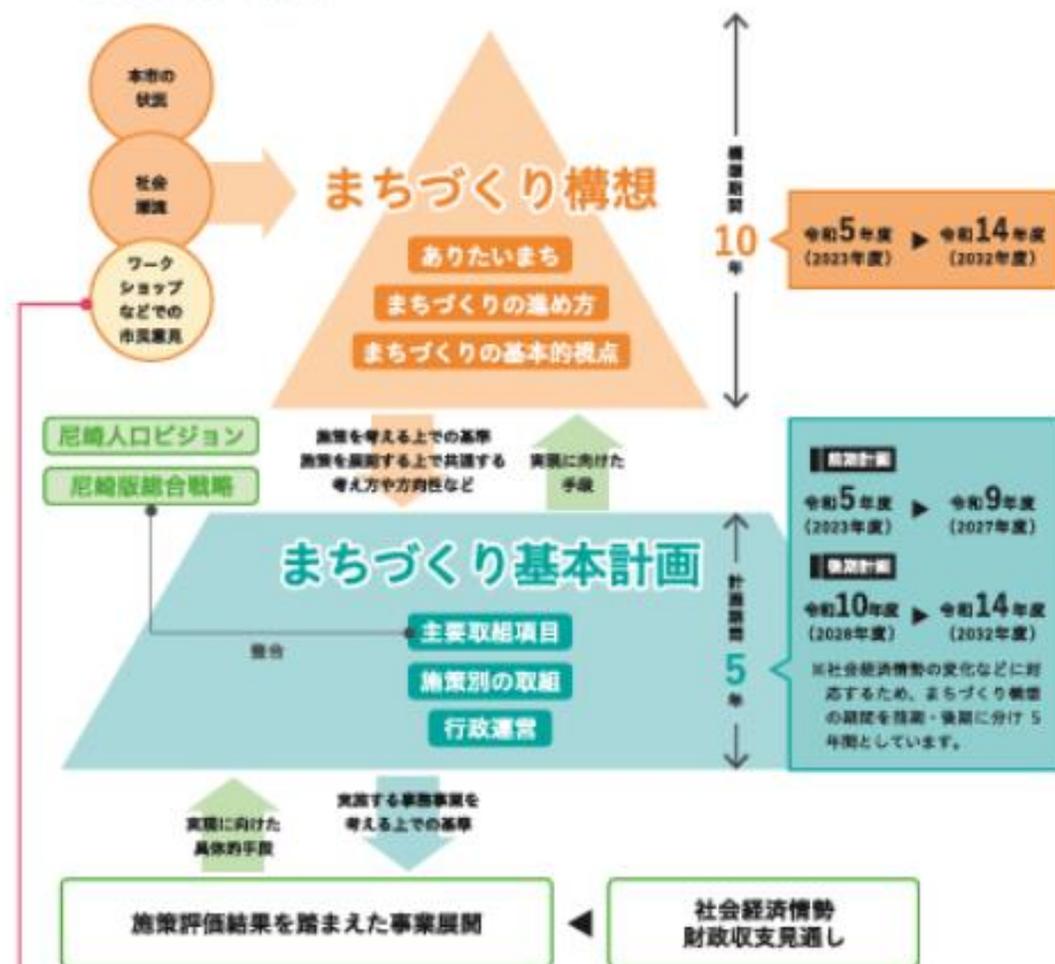
② 主要取組項目

施策を選別させながら複数年をかけ、優先的かつ集中的に取り組む項目

③ 行政運営

市の経営資源の強化の視点など

＜総合計画の構成＞



開催予定

| | 令和6年度 | | 令和7年度 | | | | | 1月-3月 | R8~ | | | |
|-------------------------|--------------------|-----------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-----------------------|-------------------|------------------|-------|--|
| | 10月-12月 | 1月-3月 | 4月-7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | | 12月 | 1月-3月 | 後期策定へ | |
| 総会 | ● 引継ぎ・ 部会の設置 | | | | | | ● 中間点検結果 案を確認 | ● 中間点検結果 案を最終確認 | 令和8年1月 中間報告書策定 | 令和8年3月 後期計画諮問 | | |
| 専門部会 | | ● 構想~主要取組 | | ● 13施策・行政 運営確認① | ● 13施策・行政 運営確認② | ● 13施策・行政 運営確認③ | | | | | | |
| 市民・有識部会 | | ● 構想~主要取組 | | ● 13施策・行政 運営確認① | ● 13施策・行政 運営確認② | ● 13施策・行政 運営確認③ | | | | | | |
| 庁内検討会議（本部） （幹部職員） | | | | | | | ● 中間点検結果 案を確認 | | | | | |
| 庁内検討会議（PT） （企画管理課長等） | | | | | | | ● 中間点検結果 案を確認 | | | | | |
| その他のイベント | | | ガイドブック サミット 施策評価 | | | | | | | | | |
| 事務局作業 | 総会開催 部会の設置 | 専門部会 市民・有識部会 開催 | | | | | 中間点検結果 案を策定 | 中間点検 最終案を策定 | 中間報告書 完成 | | | |

R7に構想・前期計画点検
(スケジュールは未定)

進め方

【本日お願いしたいこと】

- ・ 第6次総合計画の点検をお願いします。
- ・ 令和7年度まで点検を行い、令和8年度から「後期計画の策定」を進めていく予定です。
- ・ 今回で「修正内容」まで決める必要はなく、検討が必要な箇所の洗い出し、とお考え下さい。
- ・ 今日取り上げるのは、**P.12「社会潮流」**から**P.43「主要取組項目」**まで。

【専門部会と市民・有識部会の役割分担について】

＜市民・有識部会＞

- ・ 尼崎での生活や活動を通じて感じることを基に、計画が実感に合うか等を確認
- ・ 感覚や経験に基づいて、感覚とのズレ・記載がない新たなニーズ等にコメントをいただく

＜専門部会＞

- ・ それぞれのご専門の分野の観点から、計画の内容が適切か等を確認
- ・ アップデートや追記・修正が必要と思われる個所にコメントをいただく

【市民・有識部会での意見（暫定）】

人材確保の難化／転入者の増と転入者のコミュニティ形成の必要性／
新旧住民のつながりづくり／コミュニティの担い手の減少・固定化／
情報リテラシーの重要性の高まり／コロナ禍による断絶・・・

各委員の体験・経験や、尼崎での活動の中で得た気付きなど、
多くのコメント・評価をいただきました。

進め方

【本日の進め方】

- ・事務局から、パートごとに区切って説明し、論点をお示しします。
- ・パートごとに、コメントをお願いします。
- ・いただいたコメントへの理解を深めるため、事務局からコメント内容に対する質問をさせていただく場合があります。
- ・パートによっては、事務局から現在の課題や、相談したい内容をお示しします。

【コメントいただきたい内容の例】

- ・現計画の検討時期から数年が経過しており、その間の変化や直近の状況など。
- ・各分野の先進事例、他都市や民間事業者で取り組まれている事例のご紹介など。
- ・各分野における現状と課題、把握しておくべき社会環境の変化による影響など。

※ ご専門分野に限定せず、幅広くご意見をいただければ幸いです。

【本日のプログラム】

- | | | |
|-------------------|-------|-----|
| ①開会・事務連絡 | | 10分 |
| ②社会潮流・本市の状況 | (点検①) | 45分 |
| ③ありたいまち・まちづくりの進め方 | (点検②) | 10分 |
| ④PDCA～総合指標 | (点検③) | 40分 |
| ⑤主要取組項目 | (点検④) | 5分 |
| ⑥全体まとめ・ふりかえり | | 5分 |

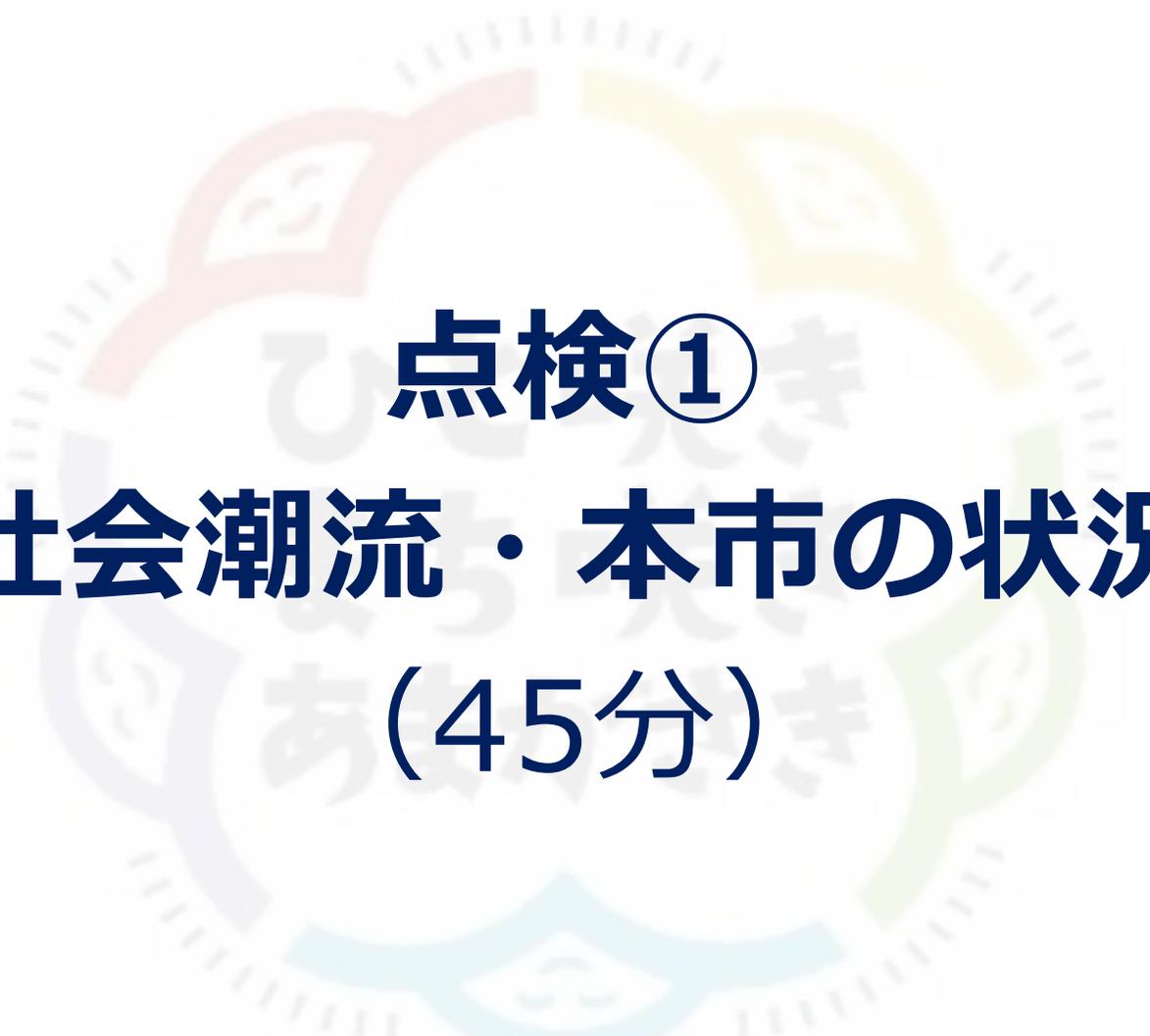
※ 個別の議題が多い項目は時間を多めに確保しています

※ 大まかな方向性を示している項目等については、大きな変更はないと考えており、議論の時間を短くしています。

※ 時間配分は参考程度ですので、状況に応じて変更します。

議論いただく際のお願い

- ・ テーマごとに、事務局からご説明させていただきます。
- ・ コメントを頂ける方は、随時ご発言をお願いいたします。
(オンラインの方は「手を上げる」ボタンを押してください)
- ・ ご専門の分野以外のことでも、ご遠慮なく発言いただければ幸いです。
- ・ 理解を深めるため、事務局から質問させていただく場合がございます。



点検①
「社会潮流・本市の状況」
(45分)

点検①「社会潮流・本市の状況」

社会潮流 (1)人口減少社会の進行

本市の状況 (1)人口動態の見通し

◎ 人口動態について事務局からご説明

<本市の人口についての状況>

- ◎ 少産多死と社会増（自然減▲2,900 社会増△2,400）
- ◎ 外国籍住民の増加（韓国・朝鮮籍を除き非常に高い増加率）
- ◎ 「单身・二人世帯の転入超過」と「ファミリー世帯の転出超過」

人口減少・人口動態についてコメントをお願いします

点検①「社会潮流・本市の状況」 社会潮流・本市の状況

◎ 社会潮流のその他の項目について事務局からご説明

◎ 多様化するコミュニティ

(希薄化・孤立化、地域団体の役員の固定化・高齢化、オンラインコミュニティ)

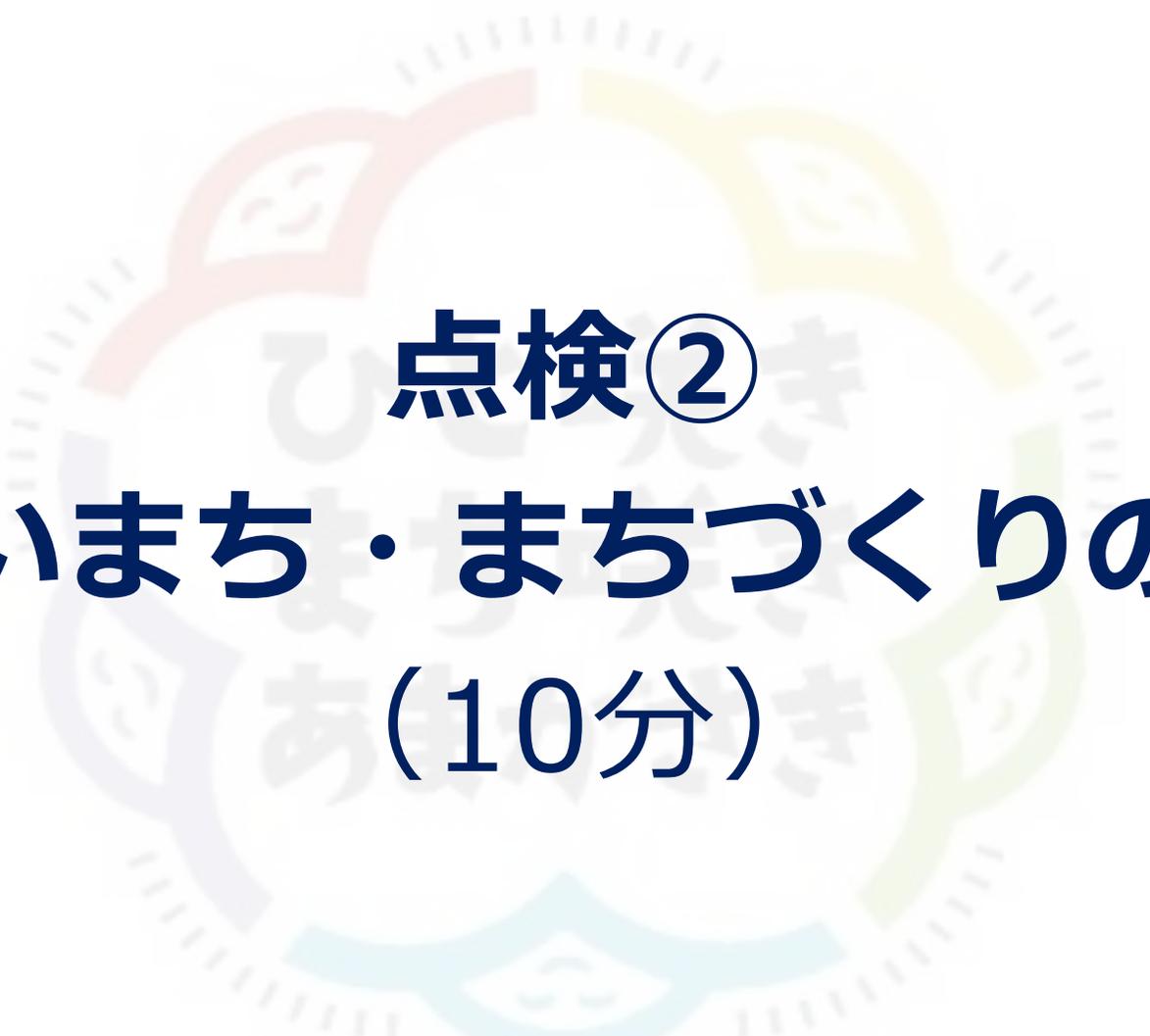
◎ 脱炭素社会の機運の高まり

◎ デジタル化の進展

◎ 産業構造・労働環境の変化

◎ 災害・防災・コロナ後の新たな日常／本市の状況

これらの現状や記載内容についてコメントをお願いします



点検②

「ありたいまち・まちづくりの進め方」 (10分)

点検②「ありたいまち」「まちづくりの進め方」

- ・ 5つの「ありたいまちのようす」
- ・ 自治による「まちづくりの進め方」

＜ありたいまち/まちづくりの進め方＞

- ◎ 5つの「ありたいまちのようす」について
- ◎ 「自治によるまちづくり」について

これらに対してコメントがあればお願いします

＜事務局課題＞

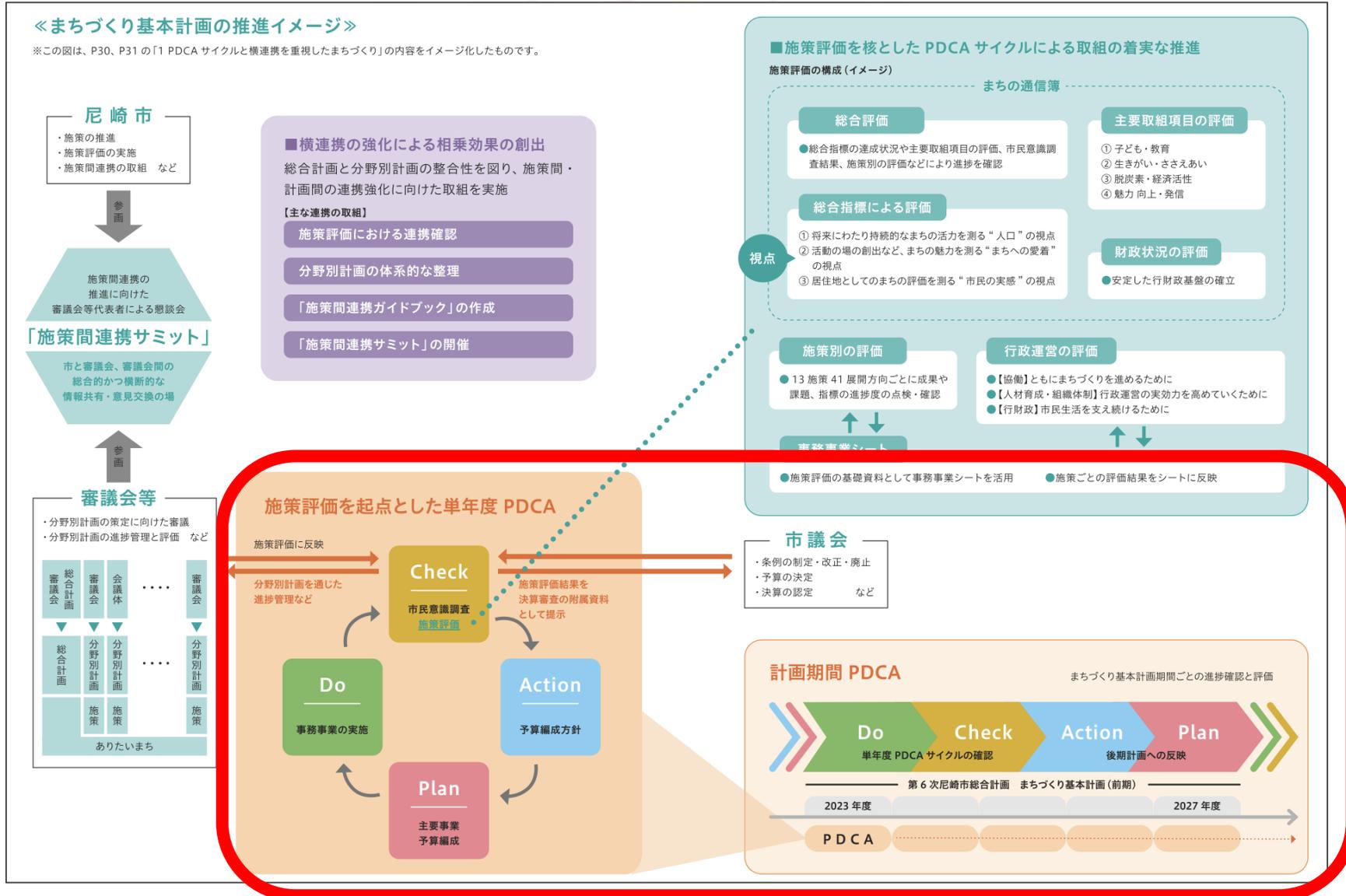
- ◎ 自治によるまちづくりをどのように評価していくか
- ◎ 市民参画指数を測定しているが、他に評価手法がないか



点検③
「PDCA ～ 総合指標」
(40分)

総合計画のPDCAの手法

「単年度PDCA」（＝施策評価）とそれを積み重ねた「計画期間PDCA」



施策評価を起点とした単年度 PDCA

Check: 市民意識調査 施策評価 (施策評価結果を 決算審査の附属資料として提示)

Do: 事務事業の実施

Action: 予算編成方針

Plan: 主要事業 予算編成

Check → Do → Action → Plan → Check

計画期間 PDCA

まちづくり基本計画期間ごとの進捗確認と評価

Do: 単年度 PDCA サイクルの確認

Check: 単年度 PDCA サイクルの確認

Action: 単年度 PDCA サイクルの確認

Plan: 後期計画への反映

第6次尼崎市総合計画 まちづくり基本計画(前期)

2023年度 2027年度

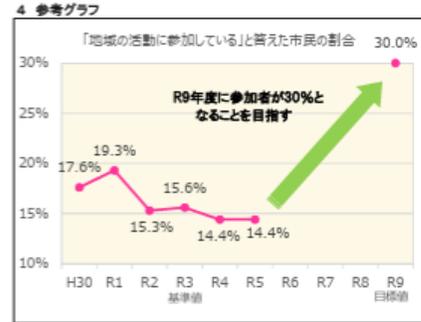
PDCA

令和6年度 施策評価表(令和5年度決算評価)

| 1 基本情報 | | | | | | | | | | |
|---|-------|-------------|------|------|---------------------|------|------|------|------|----|
| 施策名 | 01 | 地域コミュニティ・学び | 展開方向 | 01 | 地域コミュニティの醸成・生涯学習の推進 | | | | | |
| 担当部署 | 総合政策局 | | | | | | | | | |
| 2 目標指標 | | | | | | | | | | |
| 指標名 | 方向 | 基準値 | | 目標値 | | 実績値 | | | | |
| | | R3 | % | R5 | % | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
| A 「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合 | 1 | 7.1 | % | 13.1 | — | — | 7.1 | 13.3 | 12.8 | |
| B 「地域の活動に参加している」と答えた市民の割合 | 1 | 15.6 | % | 30.0 | 19.3 | 15.3 | 15.6 | 14.4 | 14.4 | |
| C 「親戚などに参加して学んだことを地域や社会のために生かしたい」と考えている参加者の割合 | 1 | 78.1 | % | 90.0 | — | — | 78.1 | 81.2 | 82.0 | |
| D 地域の小中学校で行事やボランティア等に参加したことがある人の割合 | 1 | 24.7 | % | 30.0 | 25.5 | 20.4 | 24.7 | 26.9 | 28.1 | |
| E 市民1人あたりの貸出冊数 | 1 | 3.15 | 冊 | 5.87 | 3.23 | 2.78 | 3.15 | 3.00 | 3.11 | |

| | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 5 担当局評価 | | | | | | | | | |
| 【これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と目標への貢献度(令和5年度実績内容)を記載)】 | | | | | | | | | |
| 【多様な主体による地域発生の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】 | | | | | | | | | |
| (目的)多様な主体同士が情報共有や相互理解を深めるような場づくりを進め、地域の課題解決や魅力向上の取組が地域発覚で行える地域社会づくりを目指す。 | | | | | | | | | |
| (成果)①地域コミュニティの活性化に向け、地域の方々にとって関心が深く身近なテーマを入り口として地域活動の参加へとつなげることを目的に、全ての地域課題において防災をテーマとした取組を行った。圏域では、地域全体で2つの自主防災会合同の防災訓練が実施され、地域課題の丁寧な発見により、防災意識の高まりとともに地域活動への参加に向けた集連の醸成が図られた。(目標指標B) | | | | | | | | | |
| ②地域発覚の取組を今後増やしていくために、中央では生涯学習プラザ以外の施設でプラットフォームを開設し、新規の参加者を増やす工夫をするなど地域課主催の複数のプラットフォームで開催方法を見直した。(目標指標B) | | | | | | | | | |
| ③地域課と各施策の関係部署との相互理解を深めたことで、各施策と連携した取組を進める機会ができた。そうした中、小田では新たな地域福祉推進の取組として、医療生活と協働し、地域住民が満足しみなから健康づくりについて学ぶ「健康まつり」を実施した。(目標指標B) | | | | | | | | | |
| ④①②③のコロナ禍前の地域活動の減少、特に地帯型の活動者が減少している状況について、改善に向けた方策を講じる必要がある。①②③今後も地域特性に応じた事業実施や活動支援が可能となるよう、地域に Outreach 情報収集を行うとともに、地域情報共有サイト(あましま)や市民意識調査の分析結果など蓄積された情報を活用しながら取組を進める必要がある。 | | | | | | | | | |
| ④地域振興体制の再構築から5年が経過し、地域担当職員の入替わり発生中。目指す方向性や業務の範囲等をスムーズに共有する必要がある。 | | | | | | | | | |
| 【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】 | | | | | | | | | |
| (目的)学びたい思い、取り組んでみたい思いを支援し、ひとときプラザや生涯学習プラザをはじめ、まちのいたる所で学びや活動が創出されることを目指している。 | | | | | | | | | |
| (成果)④本市が目指す「生涯、学習！」の理念が伝わるようなみんなの尼崎大学大学案内の作成など、自己の体験や学びがまちの課題解決にもつながっていくよう意識が芽生えるような取組を進めた。(目標指標A・B・C) | | | | | | | | | |
| ⑤地区での特色ある取組として、大庄地区では、協働型公園の実現に向けて、社会実験「Enjoy!OISHIHOW!カフェ」を開催した。社会実験は、大庄西中学校跡地活用に向けて意見交換会や「シンガのロコ公園サポーター会」を通じて丁寧に協議を重ねてきたことにより、サポーターが主体的に自由な発想で企画を実施することができた。(2日間で2,500人参加) | | | | | | | | | |
| ⑥興味・関心を入り口とした活動への広がりが生れたり、活動への参加意欲があるがうまくつながっていない方に、まちのいたる所で展開されている学びや活動が楽しく、情報の把握や発信の手法など対策を講じる必要がある。 | | | | | | | | | |
| ⑦一部のサポーターメンバーから公園の維持管理に対する不安や社会実験の必要性に対する疑問の声がおり、目指すべき協働型公園の理念の浸透を進め、担い手のすそ野を広げる必要がある。 | | | | | | | | | |
| 【地域と学校の連携・協働の推進】 | | | | | | | | | |
| (目的)地域の方々の経験や学習の成果を活かすとともに、学校を核とした活動を通じて地域のつながり、教育力の向上を図る。 | | | | | | | | | |
| (成果)⑥コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進を図るとともに、コーディネーターの配置を小学校41校、高校1校に加え、新たにコミュニティスクールを導入した中学校3校においても行った。また、中学校においては、これまでの地域との連携により青少年の健全育成を目的に実施してきた中学校区健全育成協議会事業をさらに、より幅広い目的で地域との連携事業を実施する地域学校協働活動への移行を支援し、全17校で実施することができた。また、地域課との連携によるキャリア教育や防災訓練、まち探検等が実施され、特色ある活動につながっている。(目標指標D) | | | | | | | | | |
| ⑦令和7年度会市開学予定のコミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的な推進を図ると、保護者や地域住民等にも効果や魅力について継続的に周知を図り、活動への参画の輪を広げる必要がある。また、学校管理職、教員に対しても、地域人材の活用が子どもたちの学びの充実や教員の負担軽減につながることで継続して周知を図る必要がある。 | | | | | | | | | |
| 【図書館を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書館サービス網の充実】 | | | | | | | | | |
| (目的)資料や情報の提供をはじめとした「知の拠点」として、市民が生産にわたり学習と交流を行える機会を創出し、豊かな暮らしを実現するための図書館サービスの充実を図る。 | | | | | | | | | |
| (成果)⑦図書館での事業の実施や座席数などをほぼコロナ禍前に戻し利用促進に努めた。記本所の指定管理業者等と図書館連携講座や季節に応じた特異展示などの実施について調整を進めるなど読書推進活動に取り組んだ。新北図書館の整備に関して、コンセプトやスケジュールなどについて検討・調整を進めた。(目標指標E) | | | | | | | | | |
| ⑧⑦のないところあつちの機会を通じて図書館に親しむ機会を創出する施策を実施し、利用者の増加を図る必要がある。「尼崎市立図書館基本的運営方針」が計画年度の中間年にあたるため、新北図書館の整備や図書館機能の充実などを見据えた改訂を行う必要がある。 | | | | | | | | | |

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 3 主要事業一覧 | |
| 令和6年度 主要事業名 | |
| 1 | 大庄西中学校跡地の整備(大庄西中学校跡地整備事業、公営施設等事業) |
| 2 | 生涯学習プラザ活用等に関する検討(生涯学習プラザ活用等推進事業) |
| 3 | 読書を通じたまちづくり学び事業(図書館行事事業) |
| 4 | |
| 5 | |
| 令和5年度 主要事業名 | |
| 1 | 恵田東会館予防保全事業(生涯学習プラザ等整備事業) |
| 2 | 大庄西中学校跡地活用等整備事業 |
| 3 | 地域コミュニティの活性化に関する調査(市民意識調査等推進事業) |
| 4 | 地域課員にかかわる各種支援制度等の見直し(地域課員活動促進事業) |
| 5 | |
| 令和4年度 主要事業名 | |
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |



| | |
|--|--|
| 令和5年度の取組 | |
| 【多様な主体による地域発覚の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】 | |
| ①②地域課主催の様々なプラットフォームにおいて交流が活発になる仕組みづくり、「あましま」や市民意識調査によるエリア分析の活用など、地域活動へ参加する市民を増やすための様々なきっかけづくりを行うことで、引き続き、地域発覚の取組が継続して生れる環境を整えていく。 | |
| ③④テーマ型と地帯型の活動がともに活性化し、これらが協働した取組が生まれるような状況を目指す。まずは、それぞれの活動者をつなげ支援する取組を進める。 | |
| ⑤自治のまちづくりに関して自ら取り組む中、多岐に亘っている地域課題について、改めて確認・整理を行い、地域担当職員の目指す方向性を明確にし、より効果的な取組を行う。 | |
| 【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】 | |
| ④興味・関心を入り口とした学びや活動に参加する意義や魅力を伝えるとともに、活動情報や市民活動に有益な支援情報を含めた情報発信の在り方について検討を進める。 | |
| ⑤協働型公園の理念の丁寧な説明を続け、社会実験で得た検証結果や課題をサポーターメンバー等と共有し、ルールづくりや公園の担い手の組織化に向けた取組を進めるとともに、新たな自治の推進事例として全庁的に共有を図る。 | |
| 【地域と学校の連携・協働の推進】 | |
| ⑥コミュニティスクールの導入に合わせ、コーディネーター未設置校にも優先配置するとともに地域課等との連携による学校支援を行う。また、地域学校協働活動に係る好事例の情報収集、学校現場との共有を図り、各学校の強みを生かした取組につながるよう支援する。 | |
| 【図書館を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書館サービス網の充実】 | |
| ⑦市立小学校及び特別支援学校の児童・生徒に対し電子図書館のIDを付与し、各学校におけるタブレットを活用した学習活動や家庭での読書活動を推進する。新北図書館の整備について検討を進めるとともに、「尼崎市立図書館基本的運営方針」について中間評価を踏まえた改訂に取り組む。 | |

| | |
|--|--|
| 主要事業の進捗につながる項目 | |
| 【図書館を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書館サービス網の充実】 | |
| ⑦新北図書館の整備を受けて、市内バランスを考慮した図書館機能の充実について検討を進める。 | |

施策評価

13施策について、2~4つの展開方法に分類。

市長・副市長が評価し、次年度の政策・予算へ反映

施策評価に基づく単年度PDCA（施策評価・まちの通信簿）

総合指標

① あまがさきで子どもを育てる人を増やす

ファミリー世帯(5歳未満の子どもがいる世帯)の転出超過傾向は、本市の最重要課題の1つです。課題解決に向け、教育や治安・マナーの向上などに総合的に取り組み、転出超過数の半減をめざします。

■ファミリー世帯の転出超過数の推移

| 年度 | 転出 | 転入 | 超過数 |
|----|-----|-----|-----|
| R1 | 907 | 853 | 292 |
| R2 | 554 | 571 | 299 |
| R3 | 614 | 606 | 378 |
| R4 | 614 | 606 | 317 |
| R5 | 606 | 786 | 180 |
| R9 | 180 | - | 180 |

【分析結果等】

- 令和5年度のファミリー世帯の転出超過数は180世帯となり、目標を達成。
- 引き続き、単身・二人世帯が大幅な転入超過。
- 単身・二人世帯がファミリー世帯になっても住み続けたいと感じてもらえるまちづくりが必要。

評価欄 よ く ま ち の こ と し よ め ざ し ま す

② まちのことを想い、活動する人を増やす

まちの課題を解決し、魅力を高めるためには、まちに愛着を持ち、まちづくりに参画する人を増やすことが大切です。「地域推奨意欲」「地域活動意欲」「地域活動感謝意欲」の3つを組み合わせた市民参画指数の向上をめざします。

■市民参画指数の推移

| 年度 | 市民参画指数 |
|----|--------|
| R1 | 43.5 |
| R2 | 43.1 |
| R3 | 40.6 |
| R4 | 42.5 |
| R5 | 45.3 |
| R9 | 49.8 |

【分析結果等】

- 令和5年度の市民参画指数は45.3となり、前年度と比べ上昇。
- 地域推奨意欲は着実に向上。
- 地域活動意欲も向上しているが、「忙しくて参加できない」が多い。
- 地域活動感謝意欲が低い理由は「活動している人知らない」「感謝する場面に出会わない」が多く、活動している人や場面の発信が重要。

評価欄 よ く ま ち の こ と し よ め ざ し ま す

③ あまがさきに住んで良かったと思う人を増やす

全国的に人口減少が進行するなか、選ばれ続けるまちであるためには、市民の本市に対する満足度が何より大切です。そのため、居住地としてのまちの評価を測る“市民の実感”の視点として、「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合の向上をめざします。

■「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合の推移

| 年度 | 割合 (%) |
|----|--------|
| R3 | 91.3 |
| R4 | 92.7 |
| R5 | 91.0 |
| R9 | 93.9 |

【分析結果等】

- 令和5年度の市民意識調査では、「『尼崎市に住んで良かった』と感じている市民の割合」は91.0%と高水準を維持。
- 「良かった」と感じている方の割合は35-44歳で比較的低い傾向。
- 市民ニーズや課題を的確に把握し、それらに柔軟に対応できるよう、施策を展開する。

評価欄 ま ち の こ と し よ め ざ し ま す

| 項目 | | 目標 | 令和4年度 | 令和5年度 | よくできました | できました | もう少し | がんばりましょう | 備考 |
|-------------|----------------------|--|-----------------------------------|--------------------------------------|---------|-------|------|----------|-------------------------|
| ①子ども教育 | 子育てしやすいまちにしたい | 市民意識調査で「子育てしやすいまち」だと感じている市民の割合69.2%をめざします。(R9年度) | 50.4% | 51.2% | | | ○ | | |
| | 子どもたちの学力を伸ばしたい | 全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較において、あまがさきの子どもの学力が全国平均を超えることをめざします。(R9年度) | (小6) △1~△2 (中3) △2~△3 | (小6) 0 (中3) △3~△4 | ○ | | | | 小学校で目標を達成! |
| ②生きがい・ささえあい | 「安全・安心」を感じながら暮らしてほしい | 市民意識調査で「安全で安心して暮らせるまち」だと感じている市民の割合76.3%をめざします。(R9年度) | 65.3% | 70.9% | ○ | | | | |
| | 健康寿命を延ばしたい | 平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加をめざします。(R9年度) 【平均寿命(R2⇒R3) 男性80.35歳 ⇒80.14歳 女性87.06歳 ⇒86.75歳】 【健康寿命(R2⇒R3) 男性78.72歳 ⇒78.59歳 女性83.47歳 ⇒83.36歳】 | 男性△1.55歳 女性△3.39歳 (R3年度) | 男性△1.50歳 女性△3.29歳 (R4年度) | ○ | | | | |
| ③脱炭素・経済活性 | 二酸化炭素排出量を減らしたい | 二酸化炭素排出量を実質ゼロにする脱炭素社会の実現に向けて、市内の二酸化炭素の排出量を2,049kt-CO ₂ に減らします。(R9年度) | 2,292kt-CO ₂ (R3年度) | 2,439kt-CO ₂ (R4年度速報値) | ○ | | | | 市域におけるエネルギー使用量は減少しています! |
| | まちの経済を活性化したい | 兵庫県が算出している市内総生産(実質GRP)の成長率が国内総生産(実質GDP)の成長率を上回ることをめざします。(毎年度) | 市:92.5% (国:96.1%) (R2年度) | 市:108.2% (国:102.8%) (R3年度) | ○ | | | | |
| ④魅力向上・発信 | 学びと活動を循環させたい | 市民意識調査で「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合13.1%をめざします。(R9年度) | 13.3% | 12.8% | ○ | | | | |
| | 「まちのイメージ」を向上させたい | 市民意識調査で「まちのイメージが良くなった」と感じている市民の割合61.7%をめざします。(R9年度) | 60.5% | 63.7% | ○ | | | | R9年度目標を達成! 過去最高を更新! |

※ 令和5年度の「施策評価」をまとめた「まちの通信簿」から抜粋

市が活用している指標

① 事務事業評価

中事業ごとに指標を設定し、事業を評価する仕組み。

② 施策評価

総合計画に定める13の施策を、展開方向ごとに分類し、評価。それぞれに複数の指標を設定。評価結果を次年度の予算や政策に反映。

③ 13施策

市の事業を13の施策に分類し、代表指標を設定。この13施策を方向性ごとに分類したものが施策評価になっている。

④ 主要取組項目

施策を越えて連携し、優先で取り組む4項目とその指標。

⑤ まちづくりの総合指標

総合計画全体を測る3つの指標を設定。

市が活用している指標

事務事業評価 施策評価 総合計画で進捗管理



事務事業評価

施策評価

施策評価 (代表指標)

主要取組項目

総合指標

事務事業評価

中事業ごとに指標を設定し、事業を評価する仕組み

人件費も含めたフルコスト算定を実施している。

令和6年度事務事業シート(令和5年度決算)

| | | | | |
|-------|---------------|---------------|------|------------------------|
| 事務事業名 | 学びと育ち研究所運営事業費 | 3D8P | 指標 | 03 学校教育 |
| 種別 | --- | | 展開方向 | 03-1 確かな学力の保証と確やかな体づくり |
| 事業分類 | ソフト事業 | 事業開始年度 平成29年度 | | |
| 会計 | 01 一般会計 | | | |
| 款 | 15 民生費 | | | |
| 項 | 10 児童福祉費 | | | |
| 目 | 05 児童福祉施設費 | | | |
| 所 | こども青少年局 | 課 こども青少年課 | 所属長名 | 浅田 崇之 |

①事業目的・事業概要・実施内容

| | |
|-----------------------|---|
| 事業目的 (趣旨・対象・求める成果) | 子ども一人ひとりの状況に応じ、実社会を主体的に生きていく力を伸ばしていけるよう、科学的根拠(エビデンス)に基づく政策立案に活かすための研究を行う。 |
| 事業概要 | 研究所が実施する多様な実践、中長期的な効果測定を通じて、科学的根拠に基づく政策研究等を行う。 |
| 実施内容 | 1 尾崎市学びと育ち研究所の運営 平成29年4月に設置した「尾崎市学びと育ち研究所」で、所長を含め8人の研究員(大学教授等)が、市や教育委員会が保有するデータの分析及び関係部局と連携した実践研究を行っている。 研究テーマ:「教育環境が学力に与える影響」「就学前教育の質が就学後の学力や健康に与える影響」等 令和5年度は、中長期的な取組として引き続きデータの蓄積・分析を行うとともに、新たな研究員1人を迎え、新規研究2本を開始した。また、平成30年度から令和4年度に行った保育の質を評価するECERS調査の分析結果について、関係職員を対象とした研修を行った。 2 研究所報告会の開催 令和5年8月23日に研究の進捗等を報告する「学びと育ち研究所報告会」をオンラインで開催した。 3 滋賀大学との共同研究 本市におけるEBPM推進のため、滋賀大学との共同研究を行っている。 |

②事業成果の指標

| | | | | | | | | |
|-----------------|---|------|----|-------|-------|-------|----|-----|
| 目標指標 | ---(適切な成果指標及び活動指標の設定は困難) | | | | | | 単位 | --- |
| 目標・実績 | 目標値 | 達成年度 | 年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 実績 | |
| 事業成果 (達成状況等) | 【成果と課題】(目標に対する達成状況) --- 【今後の取組方針】(事業の方向性) 維持 ・子ども・教育分野の課題解決に向け、データ検証等の協力を積極的に進めていくとともに、研究の成果を教育・行政現場で活かしていけるよう、研究報告会の内容を工夫する。 ・研究所の取組は他市に先駆けた事業であり、本市の魅力として引き続き発信していく。 | | | | | | | |

③事業費

(単位:千円)

| | 令和3年度決算 | 令和4年度決算 | 令和5年度決算 | 令和6年度予算 | 備考 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|------------------|
| 事業費 A | 2,168 | 2,359 | 2,350 | 2,654 | |
| 経費費 | 407 | 275 | 163 | 378 | 研修講師、アドバイザー等への謝礼 |
| 経理費 | 726 | 768 | 245 | 149 | PO等の事務機器購入 |
| 委託料 | 201 | 319 | 425 | 1,042 | 研究報告会及びパンフレットの作成 |
| 印刷及び複製料 | 290 | 256 | 363 | 331 | コピー費用料及びzoom費用 |
| その他 | 544 | 741 | 1,154 | 754 | 滋賀大学教授料、研修講師の旅費等 |
| 人件費 B | 11,892 | 7,588 | 4,225 | 6,669 | |
| 職員人工費 | 1,54 | 0,99 | 0,55 | 0,85 | |
| 職員人件費 | 11,892 | 7,588 | 4,225 | 6,669 | |
| 兼任等人員費 | | | | | |
| 合計 C(A+B) | 14,060 | 9,947 | 6,575 | 9,323 | |
| 市費 | | | | | |
| 市債 | | | | | |
| その他 | | | | | |
| 一般財源 | 14,060 | 9,947 | 6,575 | 9,323 | |

令和6年度 施策評価表(令和5年度決算評価)

施策名: 地域コミュニティ・学び
 施策番号: 01 - 01

1 基本情報

| | | | |
|------|----------------|------|------------------------|
| 施策名 | 01 地域コミュニティ・学び | 展開方向 | 01 地域コミュニティの醸成・生涯学習の推進 |
| 本担当課 | 総務政策課 | | |

2 目標指標

| 指標名 | 方向 | 基準値 (R3) | 目標値 (R5) | 実績値 | | | | |
|---|----|----------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
| A 「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合 | 1 | 7.1% | 13.1% | — | — | 7.1% | 13.3% | 12.8% |
| B 「地域の活動に参加している」と答えた市民の割合 | 1 | 15.6% | 30.0% | 19.3% | 15.3% | 15.6% | 14.4% | 14.4% |
| C 「講座などに参加して学んだことを地域や社会のために生かしたい」と考えている参加者の割合 | 1 | 78.1% | 90.0% | — | — | 78.1% | 81.2% | 82.0% |
| D 地域の小中学校で行事やボランティア等に参加したことがある人の割合 | 1 | 24.7% | 30.0% | 25.5% | 20.4% | 24.7% | 26.9% | 28.1% |
| E 市民1人あたりの貸出冊数 | 1 | 3.15冊 | 5.87冊 | 3.23冊 | 2.78冊 | 3.15冊 | 3.00冊 | 3.11冊 |

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けた進捗と目標への貢献度(令和5年度実績)を記載)

【多様な主体による地域発生の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】
 (目的)多様な主体が協働し地域発生の取組を進め、市民の参加を促すこと。地域の課題解決に力を発揮し、地域発生の取組を促進する。

(成果)①地域コミュニティの活性化に向け、地域の方々にとって関心が高くなるテーマを入り口として地域活動の参加へとつなげることを目的に、全ての地域課題において防災をテーマとした取組を行った。圏域では、地域全体で2つの自主防災会合同の防災訓練が実施され、地域課題の丁寧な発見により、防災意識の高まりとともに地域活動への参加に向けた集連の醸成が図られた。(目標指標B)
 ②地域発生の取組を今後増やしていくために、中央では生涯学習プラザ以外の施設でプラットフォームを開設し、新規の参加者を増やす工夫をするなど地域課主催の複数のプラットフォームで開催方法を見直した。(目標指標B)
 ③地域課と各施策の関係所長との相互理解を深めたことで、各施策と連携した取組を進める機会ができた。そうした中、小田では新たな地域福祉施策の取組として、医療生活協和協力、地域住民が楽しみながら健康づくりにつなげる「健康まつり」を実施した。(目標指標B)
 (課題)①②コロナ禍以降の地域活動者の減少、特に地場型の活動者が減少している状況について、改善に向けた方策を講じる必要がある。
 ③今後も地域特性に応じた事業実施や活動支援が可能となるよう、地域に Outreach 情報収集を行うとともに、地域情報共有サイト(あましま)や市民意識調査の分析結果などを蓄積された情報を活用しながら取組を進める必要がある。
 ④地域振興体制の再構築から5年が経過し、地域担当職員の入替わりが生じる中、目指す方向性や業務の範囲等をスムーズに共有する必要がある。

【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】

(目的)学びたい思い、取り組んでみたい思いを支援し、ひと咲きプラザや生涯学習プラザをはじめ、まちのいたる所で学びや活動が創出されることを目指している。
 (成果)④本市が目指す「生涯・学習！」の理念が伝わるようなみんなの尼崎大学大学案内の作成など、自己の体験や学びがまちの課題解決にもつながっていく意識が学生えるような取組を進めた。(目標指標A-B-C)
 ⑤地区での特色ある取組として、大庄地区では、協働型公園の実現に向けて、社会実験「Enjoy!OHISHIOW!タコフェス」を開催した。社会実験は、大庄西中学校跡地活用に向けた意見交換会や「シンガポールの公園サポーター会」を通じて丁寧に協議を重ねてきたことにより、サポーターが主体的に自由な発想で企画し実施することができた。(2日間で2,500人参加)
 (課題)④興味・関心を入り口とした活動への広がりが生じたり、活動への参加意欲があるがうまくつながっていない方に、まちのいたる所で展開されている学びや活動が楽しく、情報の把握や発信の手法など対策を講ずる必要がある。
 ⑤一部のサポーターメンバーから公園の維持管理に対する不安や社会実験の必要性に対する疑問の声があり、目指すべき協働型公園の理念の浸透を進め、担い手のすそ野を広げる必要がある。

【地域と学校の連携・協働の推進】

(目的)地域の方々の経験や学習の成果を活かすとともに、学校を核とした活動を通じて地域のつながり、教育力の向上を図る。
 (成果)⑥コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進を図るとともに、コーディネーターの配置を小学校41校、高校1校に加え、新たにコミュニティスクールを導入した中学校3校においても行った。また、中学校においては、これまでの地域との連携により青少年の健全育成を目的に実施してきた中学校区健全育成協議会事業をさらに、より幅広い目的で地域との連携事業を実施する地域学校協働活動への移行を実施し、全17校で実施することができた。また、地域課との連携によるキャリア教育や防災訓練、まち探検等が実施され、特色ある活動につながっている。(目標指標D)
 (課題)⑥令和7年度全市展開予定のコミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進を図るため、保護者や地域住民等に効果や魅力について継続的に周知を図り、活動への参画の輪を広げる必要がある。また、学校管理課、教員に対して、地域人材の活用が子どもたちの学びの充実や教員の負担軽減につながることで継続して周知を図る必要がある。

【図書館を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書館サービス網の充実】

(目的)資料や情報の提供をはじめとした「知の拠点」として、市民が生産にたどり着く機会を創出し、豊かな暮らしを実現するための図書館サービスの充実を図る。
 (成果)⑦図書館での事業の実施や座席数などをほぼコロナ前に戻し利用促進に努めた。記本所の指定管理者等と図書館連携講座や季節に応じた特異展示などの実施について調整を進めるなど読書推進活動に取り組んだ。新北図書館の整備に関して、コンセプトやスケジュールなどについて検討・調整を進めた。(目標指標E)
 (課題)⑦なおいつそうあらゆる機会を通じて図書館に親しむ機会を創出する施策を実施し、利用者の増加を図る必要がある。「尼崎市立図書館基本的運営方針」が計画年度の中間年にあたるため、新北図書館の整備や図書館機能の充実などを見据えた改訂を行う必要がある。

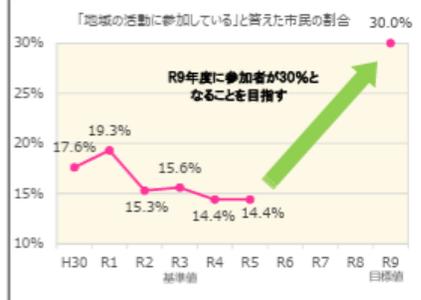
3 主要事業一覧

| 令和6年度 主要事業名 | |
|-------------|----------------------------------|
| 1 | 大庄西中学校跡地の整備(大庄西中学校跡地整備事業、公園整備事業) |
| 2 | 生涯学習プラザ活用等に関する取組(生涯学習プラザ活用等推進事業) |
| 3 | 読書を通じたまちづくり学び事業(図書館行事事業) |
| 4 | |
| 5 | |

| 令和5年度 主要事業名 | |
|-------------|---------------------------------|
| 1 | 尼崎東会館予防保全事業(生涯学習プラザ等整備事業) |
| 2 | 大庄西中学校跡地活用等整備事業 |
| 3 | 地域コミュニティの活性化に関する取組(地域活性化推進事業) |
| 4 | 地域振興にかかわる各種支援活動等の見直し(地域活性化推進事業) |
| 5 | |

| 令和4年度 主要事業名 | |
|-------------|--|
| 1 | |
| 2 | |
| 3 | |
| 4 | |
| 5 | |

4 参考グラフ



令和5年度の取組

【多様な主体による地域発生の取組や地域コミュニティを支援する仕組みづくり】
 ①②地域課主催などの様々なプラットフォームにおいて交流が活発になる仕組みづくり、「あましま」や市民意識調査によるエリア分析の活用など、地域活動へ参加する市民を増やすための様々な工夫を行うことにより、引き続き、地域発生の取組が促進され、地域発生の取組が促進される環境を整えていく。
 ③④テーマ型と地場型の活動がともに活性化し、これらが協働した取組が生まれるような状況を目指す。まずは、それぞれの活動者をつなげる取組を進める。
 ⑤自治のまちづくりに向け自ら取り組む中、多岐に亘っている地域課題について、改めて確認・整理を行い、地域担当職員の目指す方向性を明確にし、より効果的な取組を行う。

【まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり】

④興味・関心を入り口とした学びや活動に参加する意欲や魅力を伝えるとともに、活動情報や市民活動に有益な支援情報を含めた情報発信の在り方について検討を進める。
 ⑤協働型公園の理念の丁寧な説明を続け、社会実験で得た検証結果や課題をサポーターメンバー等と共有し、ルールづくりや公園の担い手の組織化に向けた取組を進めるとともに、新たな自治の推進事例として全庁的に共有を図る。

【地域と学校の連携・協働の推進】

⑥コミュニティスクールの導入に合わせて、コーディネーター未設置校にも順次配置するとともに地域課等との連携による学校支援を行う。また、地域学校協働活動に係る好事例の情報収集、学校現場との共有を図り、各学校の強みを生かした取組につながるよう支援する。

【読書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書館サービス網の充実】

⑦市立小学校及び特別支援学校の児童・生徒に対し電子図書館の活用を促し、各学校におけるタブレットを活用した学習活動や家庭での読書活動を推進する。新北図書館の整備について検討を進めるとともに、「尼崎市立図書館基本的運営方針」について中間評価を踏まえた改訂に取り組む。

主要事業の進捗にかなった取組

【読書を通じた学習活動の支援、交流機会の提供や図書館サービス網の充実】
 ⑦新北図書館の整備を受けて、市内バランスを考慮した図書館機能の充実について検討を進める。

施策評価

13施策について、2~4つの展開方法に分類。

分類ごとに5つ程度の指標を設定

定性評価も記載

次年度の政策・予算へ反映

地域コミュニティ・学び

1 現状と課題

I 現状(成果)

自治のまちづくりの推進
平成 28 年(2016 年)10 月にまちづくりのルールである「尼崎市自治のまちづくり条例」を制定しました。

シチズンシップの向上とシビックプライドの醸成
まちづくりの推進に当たっては、一人ひとりが当事者としてかかわっていくというシチズンシップの向上と、地域に対して誇りと愛着を持つシビックプライドの醸成が重要であるという認識のもと、まちの魅力向上、課題解決に向けてさまざまな取組を推進してきました。

地域資源体制の再構築
「尼崎市自治のまちづくり条例」の理念にもとづき、小学校区に1人の地域担当職員を配置し、地域資源情報を分野やエリアごとに検索できるサイト「あまさえあ」なども運用しながら多様な主体同士の関係づくりや地域発達の課題解決、魅力向上に向けた取組を推進しています。

学びと活動の拠点整備
「市民の交流・学習」、「子どもの育ち」、「教職員の人材育成」が有機的に連携した「あまがさき・ひと咲きプラザ」を整備するとともに、公民館と地区会館を学びと活動を支えるための施設である生涯学習プラザとして市内12か所に整備し、学びの機会の充実や活動の創出などに取り組んでいます。

地域資源を生かした文化振興
本市では「文化ビジョン」を策定し、過去から受け継がれてきた伝統的な祭りや行事、本市ゆかりの文化人などさまざまな地域資源を生かし、まちの魅力と活力の向上に向けた文化振興に取り組んでいます。

歴史博物館の開設
令和2年(2020年)10月に文化財収蔵庫と地域研究史料館の機能を併せ持つ歴史博物館を開館しました。歴史博物館は、豊かな歴史や文化を理解し、未来を展望する学びの場として歴史遺産を後世に伝える役割を担います。

「スポーツのまち尼崎」に向けて
本市では市制施行80周年(1996年)に「スポーツのまち尼崎」を掲げており、令和元年度(2019年度)に策定した「スポーツ推進計画」にもとづき、生涯スポーツの推進と、競技力の向上に取り組んでいます。

II 主な課題

地域コミュニティの醸成に向けた取組
地域における人と人とのつながりが希薄化する一方で、インターネットやSNSの普及により人々のライフスタイルが多様化しています。そういった状況において、地域発意や共感、相互理解が広がり、地域におけるつながりの大切さを再認識していくことが課題です。



まちに学びをまき起こす
地域の魅力向上、課題解決に向け、自発的な学びが大切であることから、これまで「みんなの尼崎大学」など学びの環境づくりを行ってまいりましたが、今後も地域の学びのプラットフォーム機能の充実・強化が求められます。

文化・歴史・スポーツに触れる機会の増加
文化・歴史・スポーツの発展のためには、「見る」「する」「支える」という視点を踏まえ、誰もがこれらに触れる機会を十分に確保し、学びや活動を支える環境づくりを行い、地域資源としての魅力を創出し、高める必要があるとあります。また、施設の維持管理や運営体制の充実が課題です。



博物館・図書館・公文書館機能の有機的な連携
文化的な情報資源の収集・蓄積・提供という共通の役割を担う、公文書館の機能を有する歴史博物館と図書館はより使いやすく親しみやすい施設となるために有機的な連携が課題です。

施策目標

● まちにかかわるすべての人が、ともに学び、考え、お互いの力を出し合う自治のまちづくりを推進することで、まちへの愛着を深め、魅力あふれるまちをめざします

2 施策の展開方向

(1) 地域コミュニティの醸成・生涯学習の推進

- ① 多様な主体による地域発意の取組や地域コミュニティを支える仕組みづくり
- ② まちのいたる所で展開される学びと活動を支える環境づくり
- ③ 地域と学校の連携・協働の推進
- ④ 図書館を通じた市民の学習活動の支援、交流の機会の提供や図書館を拠点とする図書館サービスの充実

(2) まちの魅力を高める文化芸術活動の推進

- ① 若い人の夢とチャレンジの応援
- ② はぐくまれてきた歴史・伝統・文化の継承・発展
- ③ 市民の芸術体験を支える取組の推進

(3) 歴史遺産の継承と学びの充実

- ① 尼崎の歴史に触れ学ぶ機会の拡充と魅力の発信
- ② 歴史遺産を守り、活用しながら継承していく取組の推進
- ③ 地域の歴史を学び、活動する市民を支える取組の推進

(4) スポーツに親しむ機会の充実

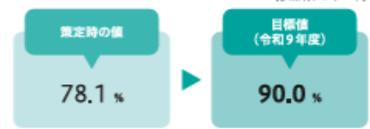
- ① ライフステージや体力などに応じた生涯スポーツの推進
- ② 各種スポーツ大会・イベントを通じた競技スポーツの推進

3 施策の進捗状況を測る代表指標

I 「地域の活動に参加している」と答えた市民の割合 (市民意識調査)



II 「講座などに参加して学んだことを地域や社会のために生かしたい」と考えている参加者の割合 (参加者アンケート)



■ 関係別マスタープランなど

- 尼崎市立図書館基本計画
- 文化ビジョン
- スポーツ推進計画

■ 関係別で関連する主な関係別マスタープラン

- 【人権尊重・多文化共生】尼崎市民権文化いざばまちづくり計画、尼崎市国際化基本方針
- 【学校教育】尼崎市教育振興基本計画
- 【子ども・子育て支援】尼崎市次世代育成支援対策推進行動計画
- 【地域福祉】あまがさき地域福祉計画
- 【障害者支援】尼崎市障害者計画
- 【高齢者支援】尼崎市長寿者保健福祉計画、介護保険事業計画
- 【健康支援】地域いきいき健康プランあまがさき
- 【消防・防災】尼崎市地域防災計画、尼崎市防災保護計画
- 【環境保全・創造】尼崎市環境基本計画
- 【都市機能・住環境】尼崎市都市計画マスタープラン(尼崎市立地適正化計画)、尼崎市住まいと暮らしのための計画

13施策とその代表指標

市の事業を13の施策に分類し、それぞれに代表指標を設定



1 子ども・教育



連携イメージ

■子ども・子育て支援の充実

待機児童対策を強力に推進するとともに、ファミリー世帯のニーズに応じた支援策の充実を図るなど、子どもを育てる人や子どもを望むすべての人が安心して産み育てられる環境づくりに取り組めます。

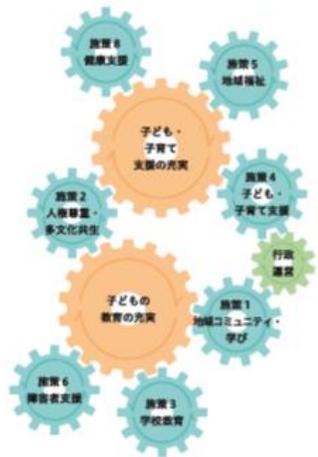
また、貧困の連鎖の解消に向け、困難を抱える子ども・若者に対する支援を継続するとともに、子ども家庭総合支援拠点である「いくしあ」と一体となった尼崎らしい児童相談所*の設置に向けた準備を進めるなど、子どもファーストを基本としつつ、ファミリー世帯を包括的に支援します。

■子どもの教育の充実

個々の伸びやつまづきに寄り添った学習支援や科学的根拠にもとづく先進研究による学力向上の取組を継続するとともに、幼保小連携の推進など就学前教育の研究・実践の取組、インクルーシブ教育システム*の推進などに取り組めます。

また、地域とともにある学校づくりをめざし、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)*の全市展開を推進します。安全・安心な教育環境の確保に向けては、いじめなどの未然防止、早期発見、早期解消に向けた取組や体罰根絶に向けた取組を徹底します。

さらに、ユースカウンシル*の実践などを通じて、若者の主体的な活動を支援します。



2 生きがい・ささえあい



連携イメージ

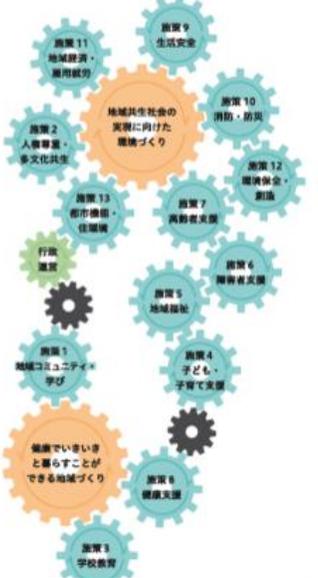
■地域共生社会の実現に向けた環境づくり

地域で世代や分野を超えてつながり、安全・安心を実感し、支えあえる社会の実現に向け、複雑化・複合化した課題を抱える人への重層的支援*の推進や、年齢、性別、障害の有無、国籍などにかかわらず、誰もが尊重され、活躍できる環境づくりに取り組めます。また、近年、頻発している大規模な自然災害などに備え、市の防災対策の強化や地域防災力の向上に取り組めます。

■健康でいきいきと暮らすことができる地域づくり

平均寿命が延伸するなか、生涯を通して健康でいきいきと暮らすことができるよう、自身の健康に対する意識を高めるとともに、それを気軽に行動に移せる環境づくりが重要です。

市民の健康寿命*の延伸に向け、より若い世代から望ましい生活習慣を獲得できるよう、「ヘルスアップ尼崎戦略*」によるライフステージに応じた健康づくりへの支援の充実を図ります。



主要取組項目 施策を連携して 優先で取り組む 4項目とその指標

1. 子ども・教育
2. 生きがい・ささえあい
3. 脱炭素・経済活性
4. 魅力向上・発信

2 まちづくりの総合指標

「ありたいまち」の実現に向けて、まちづくりを進めるに当たっては、その目標にするとともに、それらをまちづくりにかかわる主体と共有し、絶えず取組の振ら進めていくことが重要です。本計画では、主要取組項目や施策ごとに指標を測るとともに、まちづくり基本計画全体の進捗を総合的に測る「まちづくりの3つの視点で設定しました。

視点1 将来にわたり持続的なまちの活力を測る“人口”の視点

指標 ファミリー世帯の転出超過数

まちづくり構想の「2 本市の状況」にも記載のとおり、本市では、子育て中のファミリー世帯の転出超過が課題となっています。そのなかでも、特に大幅な転出超過になっている5歳未満の子どもがいるファミリー世帯の転出超過数を抑制することを総合指標の1つとして設定しています。

視点2 活動の場の創出など、まちの魅力を測る“まちへの愛着”の視点

指標 市民参画指数

まちの課題を解決し、魅力を高めるためには、まちに愛着を持ち、まちづくりに参画する人を増やすことが大切です。そこで、「地域推奨意欲」「地域活動意欲」「地域活動感謝意欲」という3つの意欲を組み合わせた市民参画指数を総合指標の1つとして設定しています。

視点3 居住地としてのまちの評価を測る“市民の実感”の視点

指標 「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合

市民意識調査による本市のイメージが向上し、近年、本市の人口を取り巻く環境が改善傾向にあるなか、今後も選ばれ続けるまちであるためには、市民の本市に対する満足度が何より大切です。そのため、本市に住んで良かったと感じている市民の割合を総合指標の1つとして設定しています。



まちづくりの
総合指標



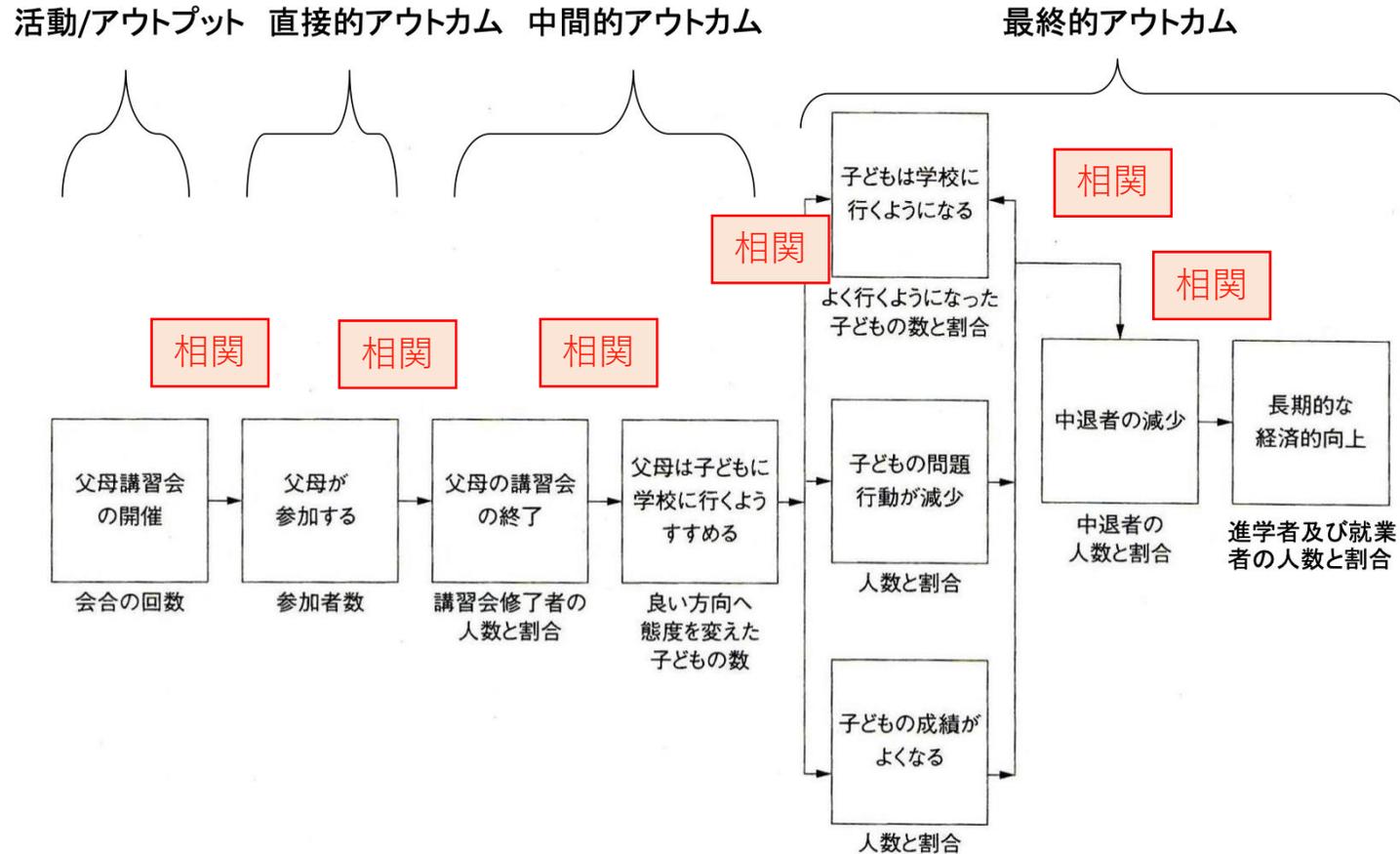
総合指標

総合計画全体を測る
3つの指標を設定。

1. ファミリー世帯の
転出超過数
2. 市民参画指数
3. 住んで良かったと
感じる市民の割合

ロジックモデルについて

「ロジック・モデル＋指標」の例1（中退防止プログラム）



1. ロジックと統計の組み合わせ

ロジックモデルでは、各段階（インプット、アクティビティ、アウトプット、アウトカム）が論理的に結びついていることが重要です。

これは、各段階の指標が「因果関係」または「相関関係」を持つことを前提としています。

ただし、必ずしもすべての指標間に直接的な「強い相関」が必要というわけではありません。むしろ、段階間の因果関係が妥当であることが重要です。

2. 相関が弱い場合のリスク

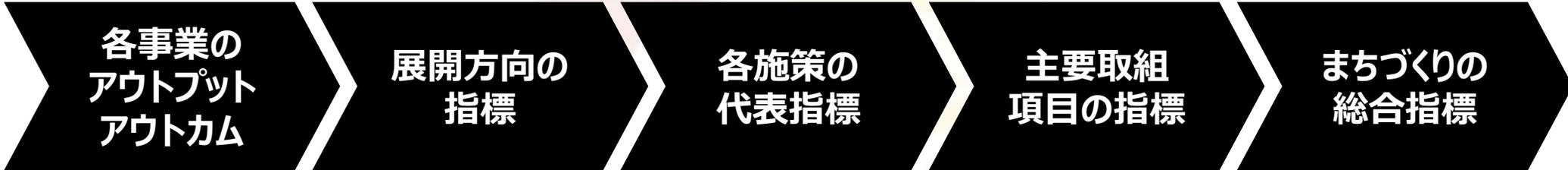
<ロジックの不整合>

各段階が独立しているように見える場合、計画全体の整合性が疑われる可能性があります。

<評価の困難さ>

指標間のつながりが弱いと、施策の成果を適切に測定できず、評価結果が曖昧になる可能性があります。

本市の各指標の構成



事務事業評価

施策評価

施策評価 (代表指標)

主要取組項目

総合指標

それぞれに指標を設定しているが、上位指標と相関する設計にしていない（ロジックモデルではない）

点検③「PDCA ～ 総合指標」

<現在のPDCA>

- ◎ 施策評価の結果を次年度の政策・予算に反映
- ◎ 指標は設定しているが、指標同士の相関・連携は厳格ではなく、精緻なロジックモデルは構築していない

<事務局課題>

- 指標間の連携、総合指標に至るロジックモデルを検討すべきか
- 現在は「施策評価」を中心に単年度PDCAを実施。
計画期間PDCAの手法はどうか。定性評価を中心に行うべきか
- **指標が多く、効果的な管理・運用が難しい。整理が必要か**
- **すべて定量的な指標**だが、ロジックモデルになっていないため、
評価は定性的に行われている。その結果、日々の業務で指標が意識されない

これらに対してコメントがあればお願いします

点検③「PDCA ～ 総合指標」

<総合指標①ファミリー世帯の転出超過数>

- ◎ 単身・二人世帯は転入超過の一方、ファミリーは転出超過
- ◎ 厳密な分析ではないが、単身・二人世帯の転入数が多いと、その数年後ファミリー世帯の転出数が多くなる相関が見られる
- ◎ 「尼崎のイメージが良くなった」はR6に過去最高を記録したがR6のファミリー転出数は増えており、相関がない可能性
- ◎ ファミリー世帯の転出超過数の現状をどう評価すればよいか

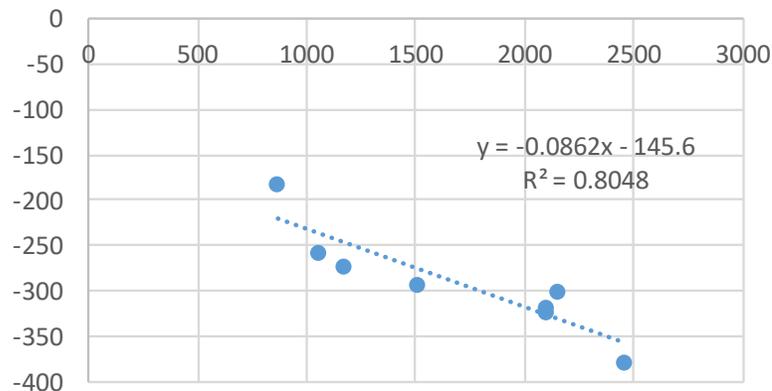
これらに対してコメントがあればお願いします

点検③「PDCA ～ 総合指標」 (P.30 – P.35)

「単身・二人世帯の転入」と「その2年後のファミリーの転出」

| | 単身+二人 転入超過 | ファミリー転出超過 (2年ずらし) | |
|-----|---------------|----------------------|-----|
| H27 | 1169 | -272 | H29 |
| H28 | 1051 | -257 | H30 |
| H29 | 1511 | -292 | R1 |
| H30 | 2151 | -299 | R2 |
| R1 | 2450 | -378 | R3 |
| R2 | 2096 | -317 | R4 |
| R3 | 863 | -180 | R5 |
| R4 | 2093 | -323 | R6 |

ファミリー転出超過
(2年ずらし)



| | 単身+二人 転入超過 | ファミリー転出超過 (2年ずらし) |
|------------------|---------------|----------------------|
| 単身+二人転入超過 | 1 | |
| ファミリー転出超過(2年ずらし) | ▲ 0.90 | 1 |

回帰統計

| | |
|--------|-------|
| 重相関 R | 0.90 |
| 重決定 R2 | 0.80 |
| 補正 R2 | 0.77 |
| 標準誤差 | 27.45 |
| 観測数 | 8.00 |

「単身・二人世帯転入超過数」
×
「2年後ファミリー世帯の転出超過数」
相関係数：▲0.90

単身・二人世帯が転入、2年後に、
ファミリーとなって転出している可能性

分散分析表

| | 自由度 | 変動 | 分散 | 分散比 |
|----|------|----------|----------|-------|
| 回帰 | 1.00 | 18639.57 | 18639.57 | 24.74 |
| 残差 | 6.00 | 4519.93 | 753.32 | |
| 合計 | 7.00 | 23159.50 | | |

| | 係数 | 標準誤差 | t | P-値 |
|-----------|---------|-------|-------|------|
| 切片 | -145.60 | 30.56 | -4.76 | 0.00 |
| 単身+二人転入超過 | -0.09 | 0.02 | -4.97 | 0.00 |

点検③「PDCA ～ 総合指標」

<総合指標②市民参画指数>

- ◎ 市民参画指数は、NPS（ネットプロモータースコア）の考え方を基に策定した、市への愛着や地域活動の意欲等を測る尼崎市独自の指標
- ◎ 「地域推奨意欲」「地域活動意欲」「地域活動感謝意欲」の3項目で測定

<総合指標③尼崎市に住んで良かったと感じている市民の割合>

- ◎ 市民意識調査（15歳以上の3,000人への無作為抽出アンケート）で測定
- ◎ 策定時：91.3% 以後も高い数値で推移

これらに対してコメントがあればお願いします



点検④
「主要取組項目」
(5分)

点検④「主要取組項目」

<主要取組項目>

- ◎ 施策を越えて連携し、優先して取り組む 4 項目を設定
- ◎ 複雑化・多様化する課題に対し必要な取組
- 理念を伝える取組は続けている
(施策間連携サミット、ガイドブックの作成等)
- 一方で、「主要取組項目」に掲げていることによる効果や、「連携が進んだか」の進捗確認、検証が難しい

これらに対してコメントがあればお願いします



「全体のまとめ・振り返り」 (5分)

全体まとめ・振り返り

- ・ 全体を通じて何かコメントがあればお願いします。
- ・ 今日取り上げられなかった内容や、コメントするタイミングが無かったが重要なこと、などあればお願いします。
- ・ ここでコメントされたいことがあれば自由にお問い合わせします。

今後について

今後、令和7年度中に全体の点検・振り返りまで行います。

**次回は4月以降の開催になります。
また日程調整させていただきます。**

引き続きよろしくお願いたします。

